

## コロナ禍における特別支援学校でのカエルの授業の実践例

松 尾 公 則

A practical example of class focusing on frogs at a special support school during  
The COVID-19 pandemic

Takanori MATSUO

### 1. はじめに

長崎女子短大松尾ゼミでは2017年から毎年長崎特別支援学校でカエルの授業を実施している。2018年には第一回目の授業のようすを紀要に発表した(2018、松尾)。しかし、今年は新型コロナの影響で通常の授業が困難になり、形を変えて実施することになった。一時は中止も考えたが、特別支援学校側から強い要望があり、例年とは異なった形で実施にふみきった。今回は、コロナ禍における特別支援学校でのカエルの授業について報告したい。

### 2. 過去の実施について

特別支援学校のカエルの授業は、過去3年にわたり5回実施している。一年目の1回目は初めてということもあり松尾一人で実施したが、2回目については数名の学生に手伝ってもらった。この授業については、長崎女子短期大学紀要第42号に「特別支援学校でのカエルの授業の実践例」というタイトルで報告している。また、2018年3月3日に開かれた九州両生爬虫類研究会沖縄大会においても同様のタイトルで口頭発表を行った。2年目は、子どもと自然環境ゼミ(松尾ゼミ)の行事として、ゼミ生全員で取り組むことになったが、あくまでも松尾中心で、学生には手伝ってもらうという形であった。しかし、子どもたちの表情を見ていると学生相手の方が生き生きとしていることに気づき、3年目は学生中心のカエルの授業とし、松尾はほとんど表に出ないようにした。過去

3年間の概要は次のとおりである。

2017年

7月3日：小学部4年生4名

11月17日：7組4名(小学部4、5、6年生)

2018年

10月29日：7組5名

11月5日：小学部4年生4名

2019年

7月3日：小学部4年生5名

### 3. 長崎特別支援学校とは

長崎特別支援学校は国立長崎病院の敷地内にある比較的重度の障害を持つ児童が集まった支援学校である(図1)。令和2年度は小学部に29名、中学部に18名、高等部に13名が通学生として在籍している。それ以外に訪問生も9名おり、全校生徒69名、職員数69名の支援学校である。



図1 長崎特別支援学校

### 4. 実施までのいきさつ

年度当初に学校を訪問し例年実施しているカエ

ルの授業の実施の有無について話し合った。新任の学校長ではあったが、過去の授業については申し送り事項としてよく知られていた。非常事態宣言が出ている中の話し合いで、例年通りの学生参加の授業は無理ということになった。一回目の時のように松尾だけで実施したらという考えもあったが、授業対象が新型コロナに対して最も注意が必要な児童ということもあり、それも難しいのではないかということで、一旦は中止と決定した。しかし、特別支援学校で予定されていた行事がすべてキャンセルになったということで、何とか工夫して実施できないだろうかという強い要望があった。私も、子どもと自然環境というゼミに入ってくれた学生に特別支援学校での授業を経験させたいという強い思いがあった。最初に、大学の講義等で実施しているリモートを考えたが、重度の障害を持つ子どもたちに対しては難しいであろうと予想された。そこで、過去の経験から、紙芝居や絵本の読み聞かせにはすごい興味を示すことを感じていたので、学校側に次のような提案をした。

- (1) カエルの授業の DVD を作成し教室で見せること
- (2) 本物のカエルたちを担任の先生たちが説明すること

以上の二点で学校側との話し合いができたので、ゼミ生 9 人と相談し、7 月 3 日の実施に向けて動き出すことになった。

## 5. DVD 作成について

4-(1)で示した DVD 作成については、7 月 3 日の授業日に向けて次のような時程でゼミの活動を開始した。

### (1) DVD 作成計画

実行委員 2 名により原案となるシナリオを作り、ゼミ全体で改良を加えていった。

### (2) 授業対象の小学部 4 年生の授業参観

5 月 28 日、授業の対象となる小学部 4 年生の授業を見学させていただいた。これは、DVD 作成の前に、カメラの向こうにいる児童のことを考えて欲しかったからである。

### (3) シナリオの完成

シナリオの完成と同時に、小道具のペープサートを作成し、劇の練習を開始した。

### (4) DVD の作成

収録は 6 月 7 日のゼミの時間に教室を借りて行った。長崎ケーブルテレビの知り合いに撮影をお願いし、DVD を作成した。完成した DVD は約 14 分の長さである。

### (1) について

シナリオ作成において 9 人のゼミ生全員が参加するようにした。内容として留意した点は、話、歌、手遊び、ペープサートなどなど、考えられるいろんなことを行い、子どもたちが飽きないように工夫したことである。さらに、5 月 28 日の事前訪問で直接子どもたちを目にして、画面越しに一人ずつ名前を呼び出席を取りたいと考え、似顔絵による呼びかけをすることにした。

### (2) について

DVD 作成に当たり、一度は子どもたちの顔を見せたいと思い、学校側に相談し、約 30 分授業参観をさせて頂いた (図 2)。小学部 4 年生だけでなく、他の学年も参観させていただき、この子たちに見せるために作るというモチベーションを持つことができた。学生たちも重度の障害を持つ子どもたちの教育現場を見て、非常に感動しているようすであった。



図 2 小学部 4 年生の授業参観

### (3) について

シナリオが完成し、練習と同時に、小道具のペープサートや使用するカエルのフィギアなどを準備した。完成したシナリオの概略は次の通りである。

☆シナリオ：「カエルの授業」の流れ☆

① 最初の挨拶

MC 「4組のみんな こんにちは」  
みんなであいさつ

② ゼミ長あいさつ

「今日はみんなといっしょに「カエルの授業」です。いっしょにお勉強しようね」

③ 出席を取る（図3）

MC 「それでは出席を取ります」

似顔絵を出しながらカメラの前で名前を一人ずつ呼ぶ

けいくん（増山）：けいくん おはよう  
しゅんくん（大久保）：しゅんくんおはよう  
ひろくん（久保）：ひろくん おはよう  
いぶくん（松本）：いぶくん おはよう  
ひなちゃん（岩下）：ひなちゃん おはよう  
りゅうくん（田嶋）：りゅうくん おはよう

※ 挨拶は「おはよう」で統一し、呼んだ後に全員でおはようという。



図3 出席を取っているところ

MC 「みんないるね」

MC 「今から絵本を読みます 本の題名は「10匹のカエル」です」

④ 絵本読み「10匹のカエル」朗読者：小川

ゆっくりと大きな声で感情を込めながら読む。

本読み中、背後の黒板を使い、ペープサートで内容を演じる（図4・5）。

おたまじゃくし（川尻）、かえる（岩下）

どじょう（大久保）、かたつむり（久保）

ちょうちょう（増山）、ざりがに（鋤崎）

くつの舟（松本）

ポチャンと川に飛び込む場面で『一匹のカエル』を合唱する（図6）。伴奏（田嶋）



図4 絵本を読んでいるところ



図5 ペープサートによる演技



図6 一匹のカエルの合唱



図7 カエルの合唱を歌う

手遊びしながら、大きな声で歌う。

カエルの指人形を一匹ずつ指につけていく。

最終的に指人形のカエルは5匹になる。

絵本を読み終わったら、みんなで『カエルの合唱』を歌う。

最後の文章「歌をうたってくれました。」とい

う読みが終わったときに伴奏を始める。

一回目：そのまま歌う。

MC 「たのしかったね。もう一回歌ってみようか。いいかな」

全員 「はーい」

二回目：ペープサートを持って歌う（図7）。

MC 「みんなたのしかったかな」

MC 「けいくん しゅんくん ひろくん いぶくん ひなちゃん りゅうくん  
カエルのことわかったかな」

### ⑤ 動物の紹介

MC 「今から、今日連れてきたカエルとその仲間たちを紹介するね」

ヒキガエル（岩下）：大きな大きなヒキ太郎だよ。お腹はぷよぷよしてるよ（図8）。



図8 ヒキガエルの紹介

クサガメ（久保）：かわいいカメさんです。まだ、赤ちゃんだよ。

ヘルマンリクガメ（鋤崎）：名前はカメールだよ。大きいね。さわってごらん。

ゴキブリ（小川）：かぶとむしみたいだね。触るとしゅーっていう音を出します。

ウーパールーパー（大久保）：水の中だよ。気持ちよさそうだね。

アマガエル（松本）：かわいいでしょ。緑色がとってもきれいです。

シュレーゲルアオガエル（田嶋）：きれいな緑色と大きな黒い眼がきれいでしょ。

イモリ（川尻）：お腹が赤いよ。分かるかな。上から見ると真っ黒だね。

ザリガニ（増山）：ハサミが大きくてなんでも切っちゃうよ。怖いね。

MC 「今から、この動物たちと一緒に遊ぼうね」

⑥ 最後に、もう一度歌を歌う。

MC 「最後に、みんなと一緒に、もう一度、カエルの合唱を歌いましょう」

MC 「今度はカエルの楽器も一緒だよ」

・音を鳴らしながら

「カエルのカスタネットです」

「カエルのギロギロです。」

MC 「さあ みんなで歌おうね」  
歌を歌う。

⑦ 最後の挨拶（図9）

着ぐるみかぬいぐるみを持って準備する。

MC 「これでカエルの授業は終わりです」

MC 「今から、みんなの前にいるカエルさんたちと遊んでください。」

全員 「バイバイ」手に持っているぬいぐるみを振る。



図9 最後のあいさつ

(4)について

6月7日、ゼミの時間に知り合いのカメラマンにお願いして撮影を行った。撮影は教室をお借りし、黒板には、ペープサートをするための絵を準備した。撮影時間は約一時間半であったが、練習の成果もあり、スムーズに進行することができた。撮影後、編集作業もお願いし、14分の番組が完成した。

## 6. 小学部4年生担当の先生方の研究室訪問

4-(2)で示した担任教諭の研究室訪問については6月26日に実施した。先生方4名に研究室に来ていただき、持参する小動物を紹介した。触れる動物については、触り方や子どもたちへの見せ方などを説明し、先生方に「本物との触れ合い」ができるようになってもらった。なお、持参する動

物は、ゼミ生の数と同じ9種類とした。これは、DVD作成の折、一人に一種類ずつ手に持って紹介したためであった。

直接触れ合う動物

ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、  
シュレーゲルアオガエル、クサガメ、  
ヘルマンリクガメ、マダガスカルオオゴキブリ  
水槽のまま見てもらう動物

ウーパールーパー、アカハライモリ、  
アメリカザリガニ

## 7. カエルの授業

7月3日に長崎特別支援学校講堂でカエルの授業を開催した。

日程：令和2年7月3日 10:30~12:00

対象：小学部4年生5名（一名欠席）

参加者：小学部4年生担当教諭5名、校長先生、  
教頭先生、保護者1名

マスコミ関係（テレビ局（NCC）、読売  
新聞社）

5名の児童を前にカエルの授業が始まった。持参したものは次の通りである。

- ・カエルの授業のDVD
- ・ペープサート、似顔絵（DVD中で絵本読みとあいさつに使用したもの）
- ・本物（DVD中で紹介した9種類）
- ・カエルのカスタネット、カエルのギロギロ（DVD中でカエルの合唱という歌で使用したもの）
- ・カエルの指人形（DVD中で「一匹のカエル」の歌に使用したもの）
- ・カエルのフィギア

カエルの授業は、次のようなシナリオである。

1. カエルの授業の紹介
2. DVDをながす（図10）
3. 本物のカエルたちと触れ合う（図11）。
4. ヒキガエルの食事風景を見る



図10 カエルの授業のDVDを見ているところ



図11 本物のカメとの触れ合い

最初にDVDをながす予定であったが、パソコンがうまく動かず見るまでに時間がかかった。しかし、先生方の臨機応変な進行で、本物の一部を先に見るといった展開になった。その後は、予定通りに進行し、途中で約10分のトイレ休憩をはさんで無事に終了した（図12・13）。



図12 最後の児童お礼の言葉



図13 最後の記念撮影

## 8. 長崎特別支援学校ミニ動物園の開園

特別支援学校の事務室前の廊下に動物を展示することになった。第一号は、7月3日の授業に持参した「アメリカザリガニ」である。これは、校長先生の強い要望であり、児童たちに憩いの場所を提供したいとの思いからであった。ただ、特別支援学校の長い歴史の中で、生きた動物の展示は行われておらず、躊躇される面もあったがまずは展示して、子どもたち、先生方、ご父兄の反応を見てみようということになった。授業から10日後の7月13日、まず、アメリカザリガニの水槽を展示した。場所は一階校長室付近の階段横で、子どもたちや職員が必ず通る目立った位置である。子どもたちや職員の評判もいいとのこと、その後、8月25日にアカハライモリ、9月16日にクサガメ、10月26日にコガタノゲンゴロウと展示する動物を増やしていった。今では、常時、4種の動物が展示され、子どもたちだけでなく、先生方やご父兄にも人気者となっている（図14）。



図14 展示のようす

常設展示以外に一週間限定の展示を提案したところ、是非ということ、まずは、11月25日から一週間、青いアマガエルを展示してみた(図15)。本来の体色は緑色であるものが突然変異で青色になったカエルである。職員や保護者の人気が高かったようだ。次の週は、ヒキガエル2匹を展示した。子どもたちも含め学校全体で大きな評判になり、保護者も驚いていたとのことだ(図16)。3回目は、ウーパールーパーを展示し、4回目は11月14日から大型のクサガメを展示し2020年が終わった。



図15 青いアマガエルに触れているようす



図16 先生と一緒にヒキガエルの観察

カエルの授業で本物を見せるということをして4年目、常設で本物を置くことになったが、学校側の評判はますますである。

## 9. 最後に

新型コロナの影響でいろいろな行事が中止されるなか、カエルの授業を実施することができた。これは、工夫することで何とか実施できないだろ

うかという「実施することを前提」に取り組んだ結果だと思う。特別支援学校は、新型コロナが蔓延していく中で最も配慮の必要な学校である。中止することが最も簡単で安全策であったと思うが、子どもたちのことを考えたときに、何らかの形で実施できないかという学校側の切望により実施させていただいた。長崎女子短大幼児教育学科松尾ゼミの学生にとっても大きな経験になった。DVD作成前に、実際に授業をする相手である子どもたちのようすを参観させていただいたことが大きかった。約30分という短い時間ではあったが、重度の障害を持った子どもたちが必死に学ぶ姿を見て、何とか役に立ついいものを作りたいという気持ちに駆られたのは確かであった。ゼミ生自身はカエルの授業を見たわけではないが、工夫することの大切さを十分に感じ取ってくれたと思う。

カエルの授業を実施した支援学校の先生方から次のような感想を頂いた。

#### 教諭1

「児童に触らせたい思いが強かったので、その活動を中心にさせていただきました(図17)。触れ合いの時間は十分に取れて、児童らもそれぞれのペースで見たり触ったりできたので良かったです。」



図17 ヒキガエルに触っているところ

#### 教諭2

「児童の笑顔や驚きなど様々な表情が見られて、とてもいい経験をすることができました。カエルだけでなく、いろんな種類の生き物と触れ合うことができ、充実した時間でした。」

#### 教諭3

「これまで絵本や写真などで見てきた生き物に実際に触れることができたことが一番良かったと思います。触れてとてもうれしそうに笑う児童、ちょっと嫌だなど顔をしかめる児童、もっと触りたいと要求する児童など、触れた時のそれぞれの思いを表す様子がとても印象的でした。学生さんとの触れ合いもあれば、また違う様子も見れたのかなと思います。時間的にも十分体験することができたと思います。」

#### 教諭4

「学生さんの動画がうまくテレビに映し出せず、ご迷惑をおかけしたことをお詫びします。児童が生き物にどのような反応を見せるのか期待と不安がありました。どの児童もそれぞれのペースで学習に取り組んでいたと思います。日常ではなかなかできない学習でした。途中、休憩を入れましたが、それでも十分時間をかけて生き物に触れることができました。次年度も今年並みの、じっくりと観察できる時間配分がいいと思います。」

#### 教諭5

「普段できない貴重な体験であった。今年度は新型コロナの影響で学生さんが来ることはできなかったが、次年度コロナが終息しているようであれば、学生との交流、そして、カエルや他の生き物と触れ合う体験を実施していただきたい。」

保護者の参加も呼びかけて頂いた。それは、同じ経験をする事で家庭においても共通の話題になると思ったからである。1名の参加があり、共通の経験をしていただいた。その感想が次の通りである。

「初めてカエルやカメに触れ、とても興奮して喜んでいる子どもの姿を見ることができました。カエルの足を引っ張ったり、背中をなでたり、普段味合うことのない感覚がとてもいい刺激になったように思います。「カエル、家で飼ってよ」というまなざしを向けられ、「小学生の男の子だな」と嬉しく思いました。普段、山の中など自然の中に行くことができないので、このような貴重な体験をさせていただいて感激しています。私も少し

ですが、苦手なカエルを触ることができました。ありがとうございました。」

当日、マスコミの取材があり、テレビでは2分程度、子どもたちがカエルなどに触れているようすを放映していただいた。また、新聞の取材もあり、概略次のように紹介されていた。

「体に障害のある子どもたちに自然の生き物と触れ合ってもらおうと、長崎女子短期大学幼児教育科の松尾公則教授が長崎市の長崎特別支援学校で特別授業を行った。カエルや生き物を前に、子どもたちは目を輝かせていた。授業は、同校小学部4年生を対象に毎年行っている。7月3日には、松尾教授の研究室で飼育している生き物が持ち込まれ、子どもたちの楽しそうな声が響いていた。……」

長崎特別支援学校のホームページではカエルの授業のことが次のように紹介されている。

タイトル：カエル先生と生き物との触れ合い授業

生き物との触れ合いを通して身近な生きものに親しみ、優しく接する気持ちを育むことを目的とし、長崎女子短期大学松尾公則教授(カエル先生)によるカエルの授業を行いました。カエルやカメに興味津々の子どもたち！ 優しくなでるなど、生き物との触れ合いが体験できました。また、長崎女子短期大学松尾ゼミの学生さんからの、ペープサートの劇、歌や似顔絵のプレゼントもあり、楽しい授業となりました。

そして、校長だより第3号には次のように紹介されている。

「カエル先生の「カエルの授業」がありました。

長崎女子短期大学教授である「カエル先生」こと松尾公則先生を7月にお招きして、小学部4年生が『カエルの授業』を行いました。カエル先生がヒキガエルやアマガエル、ウーパールーパー、マダガスカルオオゴキブリ、イモリ、ザリガニ、カメなど、普段触れることのない生き物を連れてきてくださいました。子どもたちは初めて見る生き物に緊張していましたが(実は大人もです)、少しずつ触れていく中で、感触を感じながら、生き物の素晴らしさを直接感じることができました。また、授業ではふれあい体験のほかに、長崎女子

短大幼児教育科の学生のみなさんから、絵本の読み聞かせや歌のプレゼントがビデオで届き、子どもたちは夢中でビデオを見ていました。大変すばらしい『カエルの授業』となりました。」

カエルの授業終了後に校長先生の依頼により小動物を展示することになった(図18)。



図18 ヒキガエルを観察する児童

児童にも教員にも保護者にも大変評判がいいということで、今後も継続していきたいと考えている。展示することにより、児童の歩行訓練の際、「ザリガニに会いに行こう」、「イモリのいる所まで頑張ろう」という言葉が飛び交うようになったと聞いた時には、少しでもお役に立てたことが嬉しくて感動してしまった。



図19 ミニ動物園で観察しているようす

次の文章は、校長だより第3号に書かれている内容である。

「ザリガニとイモリが仲間入りしました！  
身の回りの生物の様子について調べたり、生き

物を愛護する態度を学んだりすることを、日常生活の中でできるようになってほしいことから、ザリガニとイモリを学校で育てることにしました。

ザリガニは「ひーちゃん」と小学部の白濱孝成さんが、イモリは「あかいちょうくん」と伊藤部主治と横尾教諭が名付けました。現在、保健室の横にいますので、会いに来てください（図19）。」

長崎特別新学校でのカエルの授業を開始して4年目が終わった。今年度も、厳しいコロナ禍の中、工夫を凝らして何とか実施することができた。また、新たな試みであるミニ動物園も開園することができた。今後も、特別新学校のお役に立てるよう努力していきたいと考えている。

#### 参考文献

- 松尾公則 2005 長崎県の両生・爬虫類 長崎新聞社  
松尾公則 2017 幼稚園での野外観察の実践例 長崎女子短大紀要41：77-82  
松尾公則 2018 特別支援学校でのカエルの授業の実践例 長崎女子短大紀要42：52-58